

嵐山あらしやま〔大井川の南にあり。大悲閣は岸道きしみち七町許ほかりにあり、山中桜多し、弥生の盛には都下の騷人ふみびとここに遊宴す〕

亀山の仙洞に吉野山の桜をあまたうつし

植て侍りしが、花の咲けるを見て

続古 春ごとに思ひやられし三吉野の花はけふこそ宿に咲けれ 太上天皇

亀山七百首 あらし山暮るよりふる五月雨に更てぞ瀧の音は聞ゆる 左大弁宰相公明

新千載 さしもこそいとふ憂名のあらし山花の所といかでなりけん 前関白

続千 更行ば鐘のひゞきも嵐山空にきこえてすめる月かな 為道

五鳳集 嵐山ル看ラ花

城西三里是嵐山。 二十年来百往還。 瑞溪

人已ニ数茎新白髮。 花猶一笑旧紅顔。

嵐山觀花歌

大堰川上春澹沱宿雨新霽花正夥山鶯千嚙撩人徹遊人傾ラ城狂無スルコト那 一草屐一枝藤我亦村店買ニ白墮ラ醉來益覺興

激昂スルコトヲ 松枝挂テ巾石上坐真箇移得シタリ 罨画溪曲々都被ニ彩雲裏ニ南岸花与ハ北岸对影落テ春溜相映暖鴨嘴之灘燕尾沙青

幔碧毳一隊々細馬公子按ニ玉羈ヲ画舫佳人唱ニ竹枝ヲ蝶誤テ濃香ヲ繞ニ紅袖ヲ燕脚テ艷雪ヲ一点金卮ニ少頃アツテ初月破ニ煙濛ヲ流光

赴^テ花^ニ々々 瞳^ニ 靡^ニ 何^ニ 郎^ニ 酒^テ 醒^テ 繡^ニ 羅^ニ 冷^ニ 石^ニ 家^ニ 宴^シ 散^テ 錦^ニ 障^シ 空^シ 君^シ 不^レ 見^レ 嵐^ニ 山^ニ 昔^ニ 日^ニ 種^レ 花^ヲ 辰^ニ 山^ニ 容^ニ 学^ス 成^ス 芳^ニ 野^ノ 春^々 々^々 来^ニ 春^ニ 去^ニ 幾^{タビカ} 開^ニ 落^ニ 今^ニ 人^ニ 行^ニ 楽^ニ

咲^ニ 古^ノ 人^ヲ 不^レ 知^レ 今^ニ 春^ニ 也^タ 電^タ 過^ニ 風^ニ 雨^ニ 一^ニ 夜^ノ 塵^ノ

橘
洲
畑
禎